

## 平成24年3月度定例観察会報告書

実施日：平成24年3月18日（日）

テーマ：第9回六甲全山区切縦走 東六甲縦走路を一気に宝塚へ

天候：晴れのち曇り時々雪や雨

担当班：4班

参加人員：ビジター 12名 会員 32名 合計 44名

コース：宝殿橋バス停～東六甲縦走路入口～船坂峠～大平山  
～大谷乗越～岩倉山～塩尾寺～宝塚温泉谷公園

コースタイム：宝殿橋バス停	集合	9時00分	開会挨拶、柔軟体操
	出発	9時25分	「石の宝殿」解説
縦走路入口	出発	10時00分	「ツツジ」「松」解説
船坂峠	到着	11時25分	「ウリハダカエデ」解説
大平山直下	到着	12時15分	「ミヤマシキミ」解説 昼食
	出発	12時45分	「東日本大震災」慰霊の黙祷
岩倉山展望台	到着	14時00分	「六甲の地形」解説
塩尾寺	到着	14時30分	「塩尾寺と民話」解説
宝塚温泉谷公園	到着	15時20分	閉会挨拶

見どころ：六甲山特有の赤松・ツツジ林、表六甲と裏六甲の植生の違い、針葉樹の植林と広葉樹の二次林の林内の様子の違い、高度による気候、植生の変化など。

概要：今回のコースは縦走路中最長の約14kmで途中、給水やトイレが無いなど過酷な条件でしたが天候に恵まれ全員無事踏破できました。

集合地点からルート入口のカーブNo. 113までは車道を歩くため観察は控える予定でしたがオオカメノキ、オオバヤシャブシの新芽やサルトリイバラの赤い実など見るものが多く時間がかかりました。それでも10時には入口で石の宝殿や六甲の分水嶺の解説のあと残雪の残る山道に入りました。水無山から船坂峠まではぬかるんで滑りやすい道が続きましたが、途中六甲のツツジに関する解説や新入会員による松の解説など参加者の皆さん興味深く聞いておられました。特に松の蜂蜜に関する話題では昼食時に実物を味わえるというオマケがありました。

### 【六甲山のツツジ】

六甲山のツツジの植生との関わり（アカマツ・花崗岩・酸性土壌）

六甲山で自生のツツジの仲間の紹介（21種）

2月のアセビに始まって、8月に咲くホツツジで終わる。

（世界中のツツジの仲間2000種以上、日本で約50種など）

【ウリハダカエデ】 カエデ科

六甲山では中腹から山上にかけて各所で見られる。

雌雄異株でたまに同株。

落葉高木で今は葉が落ちていて冬芽だけである。

冬芽は赤紫色の2枚の芽鱗（皮コート）と2枚のうぶ毛のついたりん片（セーター）に2重に守られている。花期は4月下旬。

花芽と葉芽が一つの芽の中にあり（混芽）、花と葉が同時に展開して出ていく姿を写真により解説。

秋にはパステルカラーのように黄、オレンジ、紅色と美しく紅葉する。

船坂峠ではウリハダカエデの1年間に亘る観察の記録の解説や棚越でのこれも新入会員によるミヤマシキミの解説など力の入った話を聴くことができました。

ここまでの午前中の観察では800mから600mの比較的高度の高い尾根筋のためアカマツ、リョウブ、ソヨゴ、タカノツメなどの林床にコバノミツバツツジ、モチツツジ、スノキ、ネジキ、アセビ、ナツハゼ、ミヤコザサ、オオイワカガミ、ヤブコウジなど、裏六甲側の斜面にはミヤマシキミなどが目につきました

大平山直下での昼食後は出発時に参加者全員で東京で行われていた東日本大震災追悼式に合わせ1分間の黙祷を捧げました。

午後は時間に追われるように歩くのが主になりましたがヒノキの植林地の真っ暗で他の草木の殆どない状態や里山放置の二次林との植生の比較などができました。

午前中は殆ど無かったコシアブラが増え、キブシ、ホオノキ、カキ、クリなど落葉樹が目立つようになり、林床ではツルアリドオシの赤い実があったり、ネザサが増えたりと変化を感じることが出来ました。

岩倉山展望台では地質に詳しい会員に急遽お願いして景色の説明、六甲山の成り立ちについて興味深いお話を伺うことができ楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

その後は一気に塩尾寺に下り、時間に余裕ができたため周囲の景色や植物を楽しみながら三々五々ゴールの温泉谷公園（湯本台広場）へ。イイギリ、ダンコウバイ、センダン、ナナミノキ、ネズミモチ、モッコクなど庭木も含め観察しましたが雨が降り始め長谷川代表の閉会の挨拶の時には強い降りとなってしまいました。全コースを踏破した参加者はありませんでしたが全9回の企画は無事終了いたしました。

（報告：田丸）



石の宝殿の説明



ツツジの説明



松の説明



オオイワカガミ



船坂峠・ウリハダカエデの説明



ミヤマシキミの説明



ダンコウバイ



ナナミノキ